

少人数教育科目群

少人数教育科目群には ILAS セミナーとして開講されている科目が含まれます。また、外国人教員が担当する ILAS Seminar-E2 は少人数での対話を中心としたゼミ形式の「英語で学ぶ」科目で、1 回生前期から誰でも受講することができます。これらの ILAS セミナーは、大学での勉学生活への導入を図り、自律的課題発見・解決という学問のプロセスを体験し、学問の楽しさや意義を実感する場を提供します。この「京都大学への入門」である ILAS セミナーには、次の 5 つの履修するメリットがあります。

① 学びの違いを体験

ILAS セミナーは、5 人～25 人程度の学生を対象に、各学部、研究科、研究所、センター等の教員が差向かいの親密な人間関係の中で行う授業です。問題を見つけ解決するという学問のプロセスを、教育の場で体験するために少人数で行わない、講義による知識の伝達ではなく、学生が自ら学問することを学びます。

② 学びの場における仲間との相互作用

ILAS セミナーの授業のテーマは様々です。シラバスからキーワードを検索してみても、「歴史」「地理」「社会」「音楽」「数学」「宇宙」「生命」「医学」「技術」「環境」「資源」等々、京大が丸ごとそこに現われています。そこから始まって、異なる学部、場合によっては異なる回生の仲間ができて、教員と学生、学生どうしの相互作用が実現します。

③ 学びの技法の養成

ILAS セミナーにおける学生どうしの討論、教員の問いかけに答え、スライド・レポートを作成し発表する訓練は、講義を聴き教科書を読むことからだけでは得られない、自分で実際に考え、読み、議論し、書くという力を身につけるきっかけを与えます。主体的な学習の意義を理解し、またアカデミック・スキルの基礎を獲得することをめざしています。

④ 常識や初歩からの跳躍

ILAS セミナーでは、基礎から順次学ぶという手順を踏むのではなく、少人数で研究者と直接接するという特徴を生かして、学生の興味に応じた専門への道標が示されます。あるいは、初歩からの跳躍を経験することにより、学生が自分の進むべき方向を見つける機会ともなります。

⑤ 挑戦の機会

専門に進む前の段階で、ゼミナール形式の授業で学生どうしの議論が真に機能するか、特に 1 回生にとっては簡単なことではないでしょう。しかし、その難しさを挑戦ととらえ、そこに踏み込んでいくことは京大生となったあなたの特権です。また、幅広い視野をもつきっかけとして、各自の専門分野と直接関係のない科目や個人的興味・趣味嗜好にかかわる科目を積極的に選択することもきっと有益でしょう。さあ ILAS セミナーに挑戦しましょう。

(参考)

- 国際高等教育院ウェブサイト紹介ページ
<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/freshman-guide/ilas-seminars>
- 「京都大学での学び」の始まり 全学共通科目と ILAS セミナー（新入生向けパンフレット）
https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/download/freshman-guide/ilas_seminar_pamphlet.pdf